2013.10

C. BECHSTEIN

ベヒシュタインピアノ メディア掲載記事集

Euro Piano

What type of instrument do you look for?

I like a piano to be flexible, with keys that return to position quite quickly but with some resistance too.By which you will understand I don`t like a "stiff finger" piano! I am definitely against some Steinways that are no longer pianos but devices for relieving rheumatism! For me, the ideal piano today is a Bechstein, which is what I played as a child.

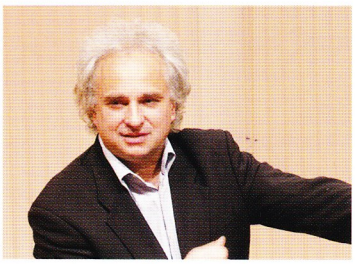
どういったタイプの楽器を探していますか？

私がピアノに求めているものは、しなやかで、鍵盤の戻りが速く、それでもある程度の強さを持っていることです。私は " 腱鞘炎 " になるようなピアノは求めていません。ですから、ピアノとはほど遠い、リューマチを悪化させるようなスタインウェイの特定のモデルには反対です。今日、私にとっての理想的なピアノはベヒシュタインです。幼少時代に練習した楽器です。

アルド・チッコリーニ
モーツァルト：
ピアノ・ソナタ第 11、2、13 番

録音場所：パリ、改革派受胎告知教会
使用ピアノ：C.BECHSTEIN
録音日：2011 年 5 月
レーベル : La Dolce Volta
輸入・販売元：キングインターナショナル
発売日：2011 年 11 月 15 日

コンスタンチン・リフシッツ



イヴ・アンリ

エル＝バシャ

近藤 嘉宏

イマどきのピアニストは、ベヒシュタインがお好き？

文＝真嶋雄大 Yudai Majima

リフシッツにエル=バシャ、イヴ・アンリ……。ベヒシュタイン・ピアノの響きに心を寄せているピアニストたちである。このピアノの何が、今彼らを引きつけているのだろうか？

現代のモダン・ピアノは、イタリアの楽器製作家バルトロメオ・クリストフォリ（1655 ～ 1731）が 1700 年頃創案した「クラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ（弱音も強音も出せるチェンバロ）に端を発する。それは音量はあっても強弱の付けられないチェンバロと、強弱は付けられても音量が十分でなかったクラヴィコードという当時主流の鍵盤楽器の長所を融合させた画期的な発明でもあった。

以来、数多くの製作者が斬新なアイディアと創意工夫を競い合い、また音楽を聴く環境が宮廷やサロンから劇場や音楽ホールへと移行する中で、ピアノは全面的な改良を施され、劇的な発展を遂げてきた。そして幾つものメーカーが立ち上がり、また淘汰されていく栄枯盛衰の歴史を繰り返しながら今に至るのだが、日本の現状を俯瞰すると、多くの音楽ホールに設置されているメーカーは、スタインウェイ、ベーゼンドルファー、ヤマハ、カワイのいずれか、あるいは複数である。

現存する最古のピアノ・コンクールでもあるショパン国際ピアノ・コンクールの公式ピアノは、創設以来スタインウェイとベーゼンドルファー（注 1）であったが、1985 年の第 11 回大会からヤマハとカワイが加わった。さらに 2010 年の第 16 回からは、イタリアで 1981 年に創業されたファツィオリが指定されて参入したが、たった 30 年ほどの社史しか持たないメーカーの大いなる快挙とも言えるだろう。それを実証するように、ファツィオリの評価は近年きわめて高く、アルド・チッコリーニやスタニスラフ・ブーニンのように、ファツィオリを指定して演奏するピアニストは少なくない。また 2011 年のチャイコフスキー国際コンクールでもファツィオリは公式ピアノに指名されている。

そんな中、最近静かにではあるが脚光を浴びているピアノがある。ベヒシュタインだ。今年 3 月 15 日、コンスタンチン・リフシッツは紀尾井ホールでバッハ《フーガの技法》を弾いた。もとよりリフシッツの持つ透徹して鏡面を渡るように美しい音は、それ自体が芸術である。と同時にフーガにおける声部をまったく混濁させずきわめてクリアに、バッハが織り込んだ対位法の玄妙さを実に丹念に、そしてフーガそのものにおける可能性を極限まで追求して孤高の境地へと昇華させた。その時用いられたのがベヒシュタインなのである。それ以前にリフシッツは、同曲をベルリンで録音、2011 年にリリースしているが、その時に使用したのがベヒシュタイン。リフシッツの想定するバッハにベヒシュタインが合致したのであろう。リフシッツは来日してから、わざわざ遠方のベヒシュタインを試弾に行き、コンサートの舞台に上げた（注 2）。

度々来日し、ラ・フォル・ジュルネなどでもお馴染みのアブデル・ラーマン・エル=バシャはベヒシュタインの信奉者だ。2011 年にリリースしたバッハ「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」は日本の秩父で収録されたが、使用したのはベヒシュタイン。エル＝バシャはある取材時に、「このところ、ベヒシュタインでしか録音していない。それはカンタービレやレガートがすばらしいから……。つまりパーカッションではなく、楽器を弾いているという感じだから……」と語っている。

ベヒシュタイン社は 1853 年、カール・ベヒシュタインによって創業された。19 世紀後半、ロマン派のヴィルトゥオーゾたちによって音楽は巨大化、複雑化されていったが、それだけに音が混濁せずクリアに響くピアノが求められた。それに応える形で開発されたベヒシュタインのクオリティは、リストに「ベヒシュタインはいつも最高の楽器だった」と言わしめ、ドビュッシーには「ピアノ音楽はベヒシュタインのためだけに書かれるべきだ」と讃えられた。

その独特の響きは数多くの歴史的なピアニストたちに愛された。シュナーベルはベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ」全曲を録音し、ビューロー、バックハウス、ケンプ、ギーゼキング、ゴドフスキたちも絶賛を惜しまなかった。

そして現代、先のリフシッツやエル=バシャの他にもその響きに心を寄せているピアニストたちがいる。パリ音楽院教授を務めるイヴ・アンリは、〈ダンテを読んで〉などのリスト作品を、前述のアルド・チッコリーニはモーツァルトのソナタ集をベヒシュタインで録音してその真を問うた。さらに日本人では、近藤嘉宏がベートーヴェン「ピアノ・ソナタ」全曲録音をすべてベヒシュタインを使って進めている。近藤はベヒシュタインについて、「とにかく透明度が高く、澄み切った音色に特徴がありますが、ピアニストの個性まで左右することはありません。高音はクリスタルのように煌めき、低音は一音一音の輪郭がはっきりして、つまり音の実体がわかる発音の良さがあるんです。他のピアノだと音数が多いと飽和状態になってしまうことがありますが、ベヒシュタインでは作曲家の意図を明確に理解できますし、また音色変化に対するレスポンスに優れています。それだけコントロールは難しいのですが……」と高く評価する。

これからますます、ベヒシュタインに関心を寄せるピアニストは増えるだろう。

（注 1）現在、ショパン・コンクールでは、ベーゼンドルファーは公式ピアノには指定されていない
（注 2）リフシッツは、プログラムや会場、環境などで使用ピアノを変えているので、常にベヒシュタインのみを弾いているわけではない

出典：日本経済新聞（夕刊）　2013年2月5日

クラシック

■ 樫本大進＆コンスタンチン・リフシッツ

豊潤にして力強いベートーヴェン

ベルリン・フィルの第1コンサートマスターとして活躍する樫本大進と、ウクライナ生れでモスクワに学んだピアニスト、コンスタンチン・リフシッツによる、ベートーヴェン・プログラムを聴く。2010年と12年に続く、3回目の完結編である。

前半の第3番と第4番、これら番号の若い曲には後の曲に較べて、ヴァイオリン伴奏つきのピアノ・ソナタという、古典派的な性格が色濃く残っている。雄弁なピアノにヴァイオリンが応える、という両者の関係を、樫本は音量や表現に謙虚さを保つことで、たくみに表現した。ただ、そのぶん音楽がやや窮屈に感じられたのも事実で、会場が大きいことも、バランス調整の難しさを増していた。

覇気にみちた演奏を聴かせた＝写真　堀田　力丸

ところが後半の第9番「クロイツェル」では、作品の特性そのままに両者が対等に渡りあい、大ホールの空間をなみなみと満たす、豊潤にして力強い音楽があふれ出た。

32歳のベートーヴェンが生み出した、ヴァイオリン・ソナタの王者というべき傑作を、ともに30代半ばのデュオがひく。それにふさわしく覇気にみちた、スケールの大きな演奏だった。

冒頭の、ヴァイオリンだけの部分の重音の放つ、ただならぬ気配。沈潜から爆発への変化。第2楽章の変奏曲での、2つの楽器による緊張感に満ちた対話と応酬。バッハ演奏家としても名高いリフシッツが、特に用いたベヒシュタインのピアノの古朴な音色が、ここで威力を発揮する。第3楽章でも音楽は力感豊かな足どりで疾走するが、終結直前の一瞬の減速によるフェイントの、鮮やかな効果。

樫本の音楽は恰幅（かっぷく）のよさに、風格もそなわってきた。

1月29日、サントリーホール。

（音楽評論家　山崎　浩太郎）

第3回高松国際ピアノコンクール公式ピアノにベヒシュタイン追加決定。

上記の決定を受け、本選用にフルコンサートグランドピアノD-282、練習用に最上級グレードグランドピアノ（L167）を貸出ます。
また、汐留ベヒシュタイン・サロンでは、審査用DVD録画録音を特別価格で提供するなど、ピアニストの支援を行っています。

汐留ベヒシュタイン・サロン（火曜日定休）

〒105-0021東京都港区東新橋2-18-2　グラディート汐留ビアンコ 1F
大江戸線・ゆりかもめ 汐留駅　8番出口より 歩4分
JR・地下鉄 新橋駅　汐留口より 歩7分　JR・モノレール 浜松町駅より 歩8分

＜お問合せ＞
TEL：03-6432-4080　FAX：03-6860-4088
e-mail：salon@euro-piano.co.jp
HP：www.bechstein-salon.com

色彩豊かな美しい音色で奏でるバッハ

アブデル＝ラーマン・エル＝バシャ、バッハ『平均律クラヴィーア曲集第1巻』CDリリース！

文◎森岡 葉

巨匠への道を着実に歩みつづけているレバノン出身の名手アブデル＝ラーマン・エル＝バシャの最新録音は、バッハ『平均律クラヴィーア曲集第1巻』。磨き抜かれたテクニックと洗練された演奏スタイルでバッハの宇宙を鮮やかに構築している。

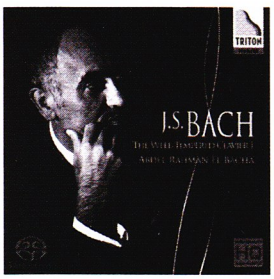
「バッハの『平均律』はすべてのピアノ作品の中でもっとも重要な作品だと思います。ですから、録音は50歳を過ぎてからと考えていました。バッハの音楽は、私にとって「人生の英知」です。すべての音符の意味、音楽の真髄を理解し、正しい図面が描けるようになるまでは弾いてはいけないと思っていました」

ベートーヴェンのソナタ全曲、ショパンやラヴェルのピアノ独奏作品全曲、60曲におよぶ協奏曲など、レパートリーの豊富さと実力には定評のあるピアニストにとっても、バッハは特別な存在のようだ。そして、今回の録音のパートナーとなったのは、「バッハの深い響きを再現するにはこのピアノしかない！」と彼が惚れ込んだベヒシュタインD280。

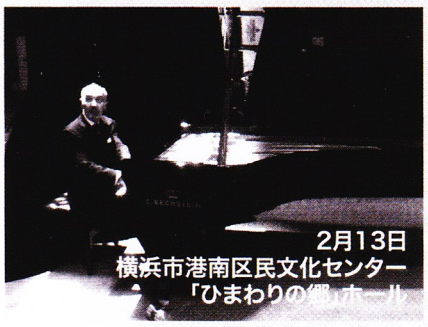
「2年前のラ・ロックダンテロン音楽祭で、このピアノに出会いました。バッハ、ショパン、ラフマニノフのプレリュードの同じ調の作品を3曲ずつ並べて順番に弾くという3時間の壮大なプログラムのコンサートだったんですが、前日のピアノ選びで試しにちょっと弾いてみたら、もうこのピアノから離れられなくなりました。ハンマーの存在を感じさせず、ピアノが打楽器であることを忘れさせるような滑らかなレガートで、よく歌ってくれたのです。色彩豊かな美しい音色に魅せられ、まさに引き寄せられたように弾き続けました。そして、このピアノでバッハの平均律を録音したいという野望を抱いたわけです（笑）」

2月の来日の際には、録音で使ったD280でモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパン、ラヴェルの多彩なプログラムを聴かせてくれた。

「この楽器の可能性を、さまざまな作曲家の作品で試してみたかったんです。あらためてすばらしい楽器だと思いました。ピュアで自然なサウンドは、モーツァルトのソナタの緩徐楽章やショパンのノクターンにとくに合っていると感じられましたし、ベートーヴェンの『テンペスト』のダイナミックな表現、ラヴェルの透明感のある繊細な音色も可能でした。この楽器で、さらに深くピアノ音楽の世界を探求してみたいですね」



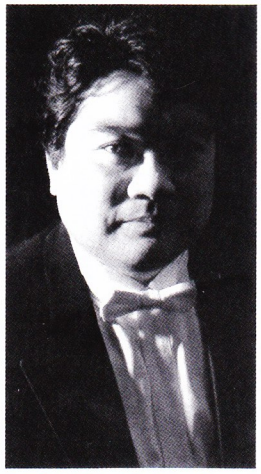
CD2枚組『J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集第1巻／アブデル=ラーマン・エル=バシャ』Hybrid盤
オクタヴィアレコード　OVCT-00077　¥4,200



2月13日
横浜市港南区民文化センター
「ひまわりの郷」ホール

お気に入りのベヒシュタインD280を持ち込んでのリサイタル。「ホールの空気に馴染ませたい」と2日前に搬入されたD280から温かく豊かな音色を紡ぎ出し、モーツァルトのピアノ・ソナタ第9番、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第17番『テンペスト』、シューベルトの即興曲（D・889-2）、ショパンのノクターン、ワルツ、『英雄』ポロネーズ、ラヴェルの『亡き王女のためのパヴァーヌ』、『鏡』より『洋上の小舟』『道化師の朝の歌』というバラエティに富んだ贅沢なプログラムを楽しませてくれた。鳴りやまない拍手にこたえて、アンコールは自身作曲の『アンダルシアの歌』、そしてバッハの平均律クラーヴィア曲集第1巻第12番よりプレリュード。内面からあふれ出すような知性と情熱を感じさせる演奏でリサイタルを締めくくった。

住友郁治
Fumiharu Sumitomo
●ピアノ



住友郁治ピアノリサイタル～ベートーヴェン三大ソナタ「悲愴」「月光」「熱情」〈日時〉4月15日19時〈会場〉東京文化会館小ホール〈曲目〉ベートーヴェン《悲愴》、《月光》、「第20番」ト長調、「第19番」ト短調、《熱情》〈問合せ〉プロ アルテ ムジケ03・3943・6677

作曲者と対話し、聴衆と共に歌う ベートーヴェン三大ソナタでリサイタルを

「鉄壁のコントロール」と評される名手が、4月にオール・ベートーヴェン・プログでリサイタルにのぞむ。

「ベートーヴェンのピアノ・ソナタは彼のライフワークで、革新的な表現方法をもつ重要な自己表現でした。彼のソナタには、初めて触れた人にも感動を持ち帰ってもらうための仕掛けがたくさんちりばめられ、それらが高次元で融合している素晴らしいものです。

人は理解できないことに感動はしませんし、理解を強いられれば反発もします。が、共に理解し通じ合った者同士には連帯が生まれます。曲を理解し、作り上げ、そして、共に高らかに歌う！ これがベートーヴェンの魅力だと思います。ベートーヴェンが自ら最高傑作とうたった《熱情》という1つの到達点までの軌跡を、みなさまと一緒に追いかけてみたい。聴衆のみなさまが演奏と一緒に心の中で歌っていただけたら幸いです」

リサイタルではこれまでのようにベヒシュタインを使うのだろうか。

「ベートーヴェンの細かい仕掛けを、細部まで瞬時に純度高くクリアーに表現するためには、ベヒシュタイン・ピアノは優れています。歌うことができなければなりません。それは演奏者と共に聴衆もベートーヴェンも一緒に、という意味です。そのためには、遠くまでしっかり聞こえなければなりませんので、現代の設計のピアノが必要です。東京文化会館小ホールは広いので、総合的に判断して運び込むピアノとじっくり対話してから(笑)、決めます」

「ピアノは創造性を駆り立てる楽器の王様だと思います。ピアノの音は、時に弦楽器や管楽器、声や合唱にも聞こえてきます。このように想像できる楽器は他にないでしょう。最近はピアノから音の出てくる場所を立体的に感じとることも、おもしろい。いろんな場所から音が聞こえてくる、まさにベートーヴェンがオケの配置にこだわって作曲に生かしたことを思い出させます。私はそれ以上の魅力もピアノから感じています。何の音でもない音まで、ピアノから出てくるような気さえするのです。どんどん想像が膨らむでしょ？」

きく

ローカルの快楽

イェルク・デムス『Clair De Lune』
Demusica　3655円

芸術新潮
2008年3月号

東京に居ると、そこそこにいいホールで、多くの演奏会を聴くことができる。幸せなことではあるが、それがあまりにも日常的になってしまうと、次第に感覚が麻痺していく。贅沢も繰り返されれば、刺激が薄れていくように。

いつものホール、そこで出会う同じような顔ぶれ、そして同じ帰り道。快適ではあるものの、それが耳をも落ち着かせてしまう。人間、リラックスし過ぎるというのも問題というわけだ。

以前、会津田島のホールでイェルク・デムスのピアノ・リサイタルを聴いたことがある。知らない街の初めてのホールに、心地よい緊張感を覚えたものだ。ホールの音響も申し分なかったが、そこに置かれた、よく調律されたベヒシュタイン製のグランド・ピアノの響きは格別であった。

バブル以降、各地のコンサート・ホールは、スタインウェイ製のピアノを所有することが、ステイタスになっている。いや、どちらかといえば、「これがあれば、格好がつく」といった消極的な選択に近いのかもしれない。まるで、ルイ・ヴィトンの鞄のように。

この日、わたしは久々にベヒシュタインの渋い音色を堪能した。スタインウェイのように表現の幅は広くないものの、その狭い範囲のなかでの事細かなグラデーションが美しいのだった。

このリサイタルの直後に同じピアノで録音されたCDが、最近リリースされた。ブラームスの微細な陰影感、ドビュッシーの素朴といっていいほどの愉悦感が、わたしのなかに蘇った。

ローカルな場所で聴く、ローカルな音楽。それは、日々の生活と切り離された環境で耳を澄ます快楽を教えてくれる。

［鈴木淳史／音楽評論家］

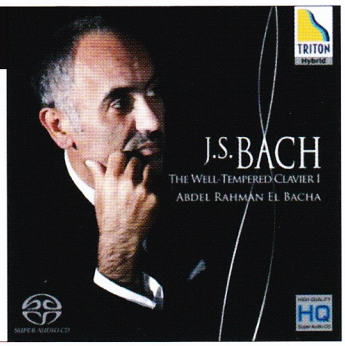
特選 ベートーヴェン　ピアノソナタVI　近藤嘉宏

ピアノ・ソナタ　第 30 番　ホ長調 Op.109
ピアノ・ソナタ　第 31 番　変イ長調 Op.110
ピアノ・ソナタ　第 32 番　ハ短調 Op.111

録音場所　：　所沢市民文化センター
　　ミューズ キューブホール
使用ピアノ　：　C.BECHSTEIN D-280
調律担当　：　加藤 正人 (ユーロピアノ)
録音日　：　2011 年 4 月 2012 年 4 月
レーベル　：　ベルウッドレコード
発売日　：　2013 年 4 月 10 日

特選 J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集第1巻　エル＝バシャ

録音場所：埼玉・秩父ミューズパーク
使用ピアノ：C.BECHSTEIN　C-280
調律担当：阿部 辰雄（ユーロピアノ㈱）
録音日：2010 年 10 月 29 ～ 30 日、11 月 1 ～ 2 日
発売元：Octavia Records
CD 番号：OVCT-00077
発売日：2011 年 1 月 26 日



準特 Recital　リスト：2つの伝説、バラード第2番 ロ短調、ソナタ ロ短調 他　住友郁治

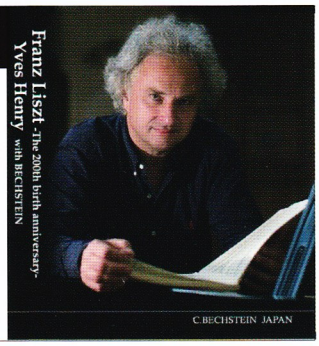
1. バッハの主題による幻想曲とフーガ　（リスト）
2-3. 2 つの伝説　（リスト）
4. バラード第 2 番　ロ短調　（リスト）
5-7. ソナタ　ロ短調　（リスト）
8. コンソレーション　第 4 番　（リスト）

録音場所　：　東京文化会館小ホール
使用ピアノ　：　C.BECHSTEIN C
発売元　：　Bishop Records
発売日　：2011 年

特選 Franz Liszt：The 200th birth anniversary　イヴ・アンリ

1　ダンテを読んで ― ソナタ風幻想曲
2　ペトラルカのソネット 第 47 番 S.158
3　オーベルマンの谷
4　ペトラルカのソネット 第 104 番 S.158
5　バラード 第 2 番 S.171
6　ペトラルカのソネット 第 123 番 S.158

録音場所　：　パリ・サンマルセル教会
使用ピアノ　：　C.BECHSTEIN D-282
調律担当　：　ジャン＝ミッシェル・ドードン
録音日　：　2010 年 7 月 27 ～ 29 日
発売元　：　ユーロピアノ㈱・Studio273
CD 番号　：CBJ-10101
発売日　：2010 年 9 月 7 日



特選 Primavera　内藤　晃

スカルラッティ：1. ソナタ ロ短調　L.33
モーツァルト　：ピアノソナタ　第 10 番
モンポウ　：6. 歌と踊り　第 6 番
フォーレ　：7. 即興曲 第 3 番
スクリャービン：9. ピアノソナタ第 4 番
メトネル　：10. 春
ショパン　：11. 舟歌 嬰ヘ長調

録音場所　：東大和市ハミングホール
使用ピアノ：Bechstein C
調律担当　：加藤　正人（ユーロピアノ㈱）
録音日　：２００７年１０月１２～１３日
発売元　：ティートックレコーズ
CD 番号　：XQDN-1011
発売日　：2008 年 3 月